

Salon

Vol.120 2019年5月 新緑号



ホール4F 壁画 ポール・ギアマン作「花とヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 寺田悦子
- 03 Phoenix Presents — コハーン・イシュトヴァーン&金子三勇士 デュオリサイトル
伊東信宏 企画・構成
土と挑発:郷吉廉&加藤洋之 デュオリサイトル
- 05 Pick Up 古瀬まきを ソプラノリサイトル ~La voix humaine~
- 07 Essay de say — 「イマジナリー・シアター」から「花鳥風月」へ 濱田あや

祝!デビュー50周年 日々を歩み続けたピアニストの境地 寺田悦子さん



2019年にデビュー50周年を迎える寺田悦子さん。16歳でウィーンに留学、在学中の18歳、一時帰国の一際にデビューリサイタルを実現しました。その時のプログラムがオール・ショパンで、今回演奏するピアノソナタ 第3番も含まれていました。留学中は、ルービンシュタイン国際ピアノコンクールで入賞するなど、ショパンの演奏にかけて特に高い評価を得ています。今回のリサイタルでは、ショパンが愛した3人の女性にスポットを当て、その生涯を俯瞰するようなプログラムとなっています。キャリアを通してショパンを弾き続けた寺田さんが辿り着いた究極のショパン像、そしてピアニストとしての境地についてお聞きしました。

(取材・文:宮地泰史/あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール)

寺田悦子(てらだ・えつこ/ピアノ)

16歳でウィーン音乐大学に留学。在学中に東京でオール・ショパン・プログラムによるデビューリサイタルを開催する。2019年、デビュー50周年。ウィーン国立アカデミー、ジュリアード音乐院大学院、インディアナ大学などで研鑽を積み、1977年第2回ルービンシュタイン国際ピアノコンクール第3位金賞、1978年リーズ国際ピアノコンクール入賞、日本ショパン協会賞などを受賞。「プラハの春」などの国際音乐祭出演、国内外各地や英国、ドイツ、フィンランド、ロシア、アメリカでのリサイタル、国内外の主要オーケストラとの共演、渡邊規久雄とのデュオ・リサイタルなど、色彩感溢れる華やかなステージで幅広く活躍。CDにショパン作品集「ノアン」「ノアンII」、渡邊規久雄との「デュオ・ピアノで聴く春の祭典&ラフマニノフ」(レコード芸術誌特選)など。現在、日本大学芸術学部大学院研究科教授。

「寺田悦子 ピアノリサイタル ~オール・ショパンプログラム~」は、2019年7月19日(金)午後2時開演。茶菓付で、入場料3,500円(指定席)、友の会3,150円。学生1,000円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム]

ショパン:ノクターン 第20番 嬰ハ短調(遺作)

スケルツォ 第1番 口短調 作品20

バラード 第1番 ト短調 作品23

ノクターン 第13番 ハ短調 作品48-1

ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」作品53

舟歌 嬰ヘ長調 作品60

ピアノソナタ 第3番 口短調 作品58

ショパンが愛した3人の女性に スポットを当てて

デビュー50周年おめでとうございます。演奏活動を継続していくのはとても大変なことだと思いますが、その秘訣などはありますでしょうか。

ありがとうございます。私はピアノを始めた時にはまさかこんなに長くピアノを弾き続けることになるだろうとは思ってもいませんでした。留学を終え帰国してからは、幸いなことに継続してピアノを弾く仕事がありましたので、目の前の仕事をひとつひとつ夢中で取り組んできた結果が今に続いているのかなと思います。昔は全てが自分を育てくれる経験と思い色々な仕事をしましたが、最近は数をこなすより、自分が弾くべき作品を見定めてじっくりとコンサートに取り組もうと考えています。

今でも、何歳まで弾き続けたいかを考えることはありません。反対にやめたいと思ったこともありませんが(笑)。弾き続けていく上で一番肝心なのは健康ですね。やっぱり。私はこれまで大病を患うこともなく元気にやってこられたことが継続の一番の理由だと思います。

これまでの演奏活動の中で、一番嬉しかったエピソード、逆に大変だったエピソードを聞かせてください。

私のピアノ人生では多くの素晴らしい師に巡り会えたことが幸運だったと思いますが、印象深いのはルービンシュタインのコンクールで入賞(※1)した時のことです。私にとって学生最後の年で、日本に帰ることを決めていた中のコンクール挑戦でした。当時はまだ世界のピアノコンクールに挑戦する日本人は少なく、不安と緊張の連続でした。審査員席にルービンシュタイン先生(※2)が座られると、会場の空気ががらりと変わるので。それは今でもはつきりと覚えています。そうした中で私は、特別な靈感というか、高まった集中力の中で演奏することができました。

大変だったことは本当に色々ありますが、30代の時ドイツが東西に分かれていた最後の年に東ドイツで行った二週間に10回のコンサートというハードスケジュールは忘れられません。初めて弾く2曲のピアノコンチェルトを一夜で演奏しなければならなかつたり、またその次の日は、移動した後にソロのピアノリサイタルがあつたりと、とても大変なツアードでした。最後まで気力と体力が持つか心配でしたが、何とか無事に終われました。今だったらとても無理でしょうね(笑)。

他に、これは今から10年位前の話なんですが、親指を骨折してしまったんです。大したことではないと思っていたら結構重傷で。その時はとにかく不安でした。医者には手術しなければ半年後にはペットボトルの蓋も開けられなくなりますよと脅されて。それで覚悟を決めて手術したんです。術後に

ギブスを当ててもらうのですが、その時、目いっぱい手を広げた状態で当ててくださいとお願いしたんですね。後で手が開かなくなったら困るのでと。そしたらお医者さんはそんな心配することないですよ。4、5ミリのことですと言うのです。それはとんでもないと。私はもともと手が小さいので、4ミリでも手の開きが縮んだら困ると訴えたんです。幸い手は元通りになったんですが、ピアノ人生最大の危機でした!

今回はオール・ショパン・プログラムですが、ショパンとの最初の出会いを聞かせてください。

中学1年生まで師事した近藤孝子先生のもとではショパンを弾いたことはありませんでした。先生はレオニード・クロイツァー門下のピアニストでしたが、ショパンは子供の弾くものでは無いという見識を持たれていたのだと思います。バッハ、モーツアルト、ハイドン、ベートーヴェンで古典を、そしてたくさんのシューマンやメンデルスゾーンの音楽を弾くことでロマン派音楽に慣れ親しみました。その後、田村宏先生に師事してから最初にいただいたのが、今回も演奏する「スケルツォ 第1番」で中学2年生の時でした。練習曲やバラード 第3番も勉強しましたが、ショパンという作曲家を強く意識したのは16歳でウィーンに留学してからのことです。ウィーンですのでドイツを中心勉強するのかと思っていたら、最初に先生にいただいた曲がショパンの「24の前奏曲 作品28」だったので。先生に「どのプレリュードですか?」と聞いたら「全曲」と言われて。レッスンではモーツアルトやベートーヴェンもたくさん勉強して持って行きましたが、なぜか一番褒めていただいたのはショパンでした。それからですね。私の人生にショパンが深く住み着くようになったのは。

寺田さんにとってのショパンとは?

ショパンの音楽には何より感覚的なを感じます。その叙情性と情熱の対比、華麗な輝きはピアノ音楽ならではのもの。そして複雑な横線が織りなす独自の和声の変化はとても斬新です!

メロディーラインだけでなく考え方抜かれた内声の動きはショパンの音楽の深みに導いていると思います。ショパンがサロン音楽を超えて普遍的なものとして愛され続けている所以でしょう。

これまでにショパンの曲を何度も演奏されたと思うますが、昔と現在で印象や解釈などが大きく変わった曲はありますか?

日々、繰り返し演奏している中では、意識的に演奏を変えようとした事は殆どないですね。ただ、

E tsuko
T erada

全く変わってないかと言われるとそれも違うと思います。私の演奏を10年ぶりに聞いたとすると、10年前よりも毎日会っていると変化に気づきませんが、10年ぶりに会うと変化を感じるでしょう。そういうことなのではないでしょうか。特に、私はショパンをずっと弾き続けているので、日々の変化を感じていないかもしれません。ただ、テンポに関しては少しゆっくりになったかもしれません。また、昔は華やかな曲の方が好きでしたが、今はどちらかというとじっくりと味わえる曲の方が好きです。そういう変化はあると思います。

今回のプログラムについて聴きどころなどを教えてください。

今回のプログラムは、ショパンの人生に寄り添うような形で組んでみました。特に彼が愛した3人の女性にスポットを当てています。

まずショパンの青年期、初恋の相手であるコンスタンツィア・グラドコフスカ。彼女はショパンがワルシャワ音楽院の学生だった頃に憧れていた女性でソプラノ歌手でした。ショパンのピアノ協奏曲 第1番 第2楽章は彼女の事を想って書かれたのではとされています。今回はその時期に書かれた「ノクターン 第20番」「スケルツォ 第1番」を演奏します。

次に現れたのはマリア・ヴォジンスカ。彼女は古くから家族ぐるみで付き合いのあったヴォジンスキ一家の娘であり、再会をきっかけに交際を開始します。婚約にまで至りましたが、健康状態の悪化などの理由により破局。この時期に書かれた曲として、「バラード 第1番」を演奏します。

そして最後は、男装の麗人と呼ばれたジョルジュ・サンドとの恋です。サンドとの恋は波乱に満ちていましたが、この時期には届指の名曲が数多く生み出されています。演奏するのは、ノクターンの中で最も情熱的な作品「ノクターン 第13番」、そして「ポロネーズ 第6番 “英雄”」です。

プログラムの後半は円熟期の充実した作品から、「舟歌」、そして私のデビューコンサートでも演奏した「ピアノソナタ 第3番」を演奏します。この曲は、自分の大事なコンサートでは必ず弾いてきた作品です。是非、皆さんにも楽しんでいただければと思います。

※1 ルービンシュタイン国際ピアノコンクール
イスラエルのテルアビブで3年毎に開催される国際ピアノコンクール。偉大なピアニスト、アルトゥール・ルービンシュタインを記念している。寺田さんは第2回(1977年)コンクールで3位に入賞した。

※2 アルトゥール・ルービンシュタイン(1887-1982)
ポーランド出身、20世紀を代表するピアニスト。特にショパンの演奏に対しての評価が高い。

■注目アーティストシリーズ70

2019年
10月5日(土)

15:00開演 指定席
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

出演
コハーン・イシュトヴァーン(クラリネット)
金子三勇士(ピアノ)

多くの国際コンクールで優勝・入賞を果たし、現在では日本を拠点に活躍するクラリネット奏者コハーン・イシュトヴァーンさんとNHK-FM「リサイタル・パッシオ」の支配人やアウトリーチなど活躍目覚ましい人気ピアニスト金子三勇士さんは共にハンガリーで学んだ盟友。サン=サーンス、ガーシュウィンの名曲を始め、自作曲、そしてピアノソロもありの贅沢プログラム。色彩豊かな表現力と巧みな超絶技巧が華やぐデュオ競演にご期待ください。



©I. Kohán

コハーン・イシュトヴァーン
(István Kohán/クラリネット)

ハンガリー出身のクラリネット奏者。12歳でバルトーク音楽院英才教育コース(高等学校)に入学し、J・リヒテルクラリネットコンクール、カルリーノ国際音楽コンクール、アントンエベルスト国際クラリネットコンクール、ICA国際クラリネットコンクール、東京音楽コンクール、秋吉台音楽コンクール、日本木管コンクール、日本音楽コンクールなど、多くの国際コンクールで優勝・入賞する。リスト音楽院卒業後の2013年に活動拠点を日本に移し、2016年に

東京音楽大学大学院修了。これまでに新日本フィル、東フィル、紀尾井シンフォニエッタ、ジュールフィルハーモニー交響楽団とコンチェルトを協演、またソロリサイタルや室内楽の活動を展開するほか、2014年からは作曲家としても活動の幅を広げる。

オフィシャルホームページ <http://www.istvankohan.com>



©Ayako Yamamoto

金子三勇士(かねこ・みゆじ/ピアノ)

1989年日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。6歳で自身ハンガリーに渡りバルトーク音楽小学校に入学、2001年からは11歳でハンガリー国立リスト音楽院大学(特別才能育成コース)に入学。2006年に全課程取得とともに帰国、東京音楽大学付属高等学校に編入する。東京音楽大学を首席で卒業、同大学院修了。2008年、バルトーク国際ピアノコンクール優勝のほか、数々の国際コンクールで優勝。第22回出光音楽賞他を受賞。これまでにゾルタン・コチシュ指揮／ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、小林研一郎指揮／読売日本交響楽団、ジョナサン・ノット指揮／東京交響楽団などと共に演奏活動を行っている。2018年4月よりNHK-FM「リサイタル・パッシオ」に支配人としてレギュラー出演。近年はライフワークの一環としてアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。ギュマロシュ名誉市民。スタインウェイ・アーティスト。

オフィシャルホームページ <http://miyuuji.jp>

■注目アーティストシリーズ71

2019年
10月26日(土)

15:00開演 指定席
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

伊東信宏 企画・構成
土と挑発:郷古 廉&加藤洋之 デュオリサイタル

出演 郷古 廉(ヴァイオリン)、加藤洋之(ピアノ)

曲目 ヤナーチェク:ヴァイオリンソナタ
ブランク:ヴァイオリンソナタ FP.119
イザイ:子供の夢 作品14
バルトーク:ヴァイオリンソナタ 第1番 Sz.75 BB84 (予定)

9月1日(日)14:00~

伊東信宏教授による講座があります。
詳細はホームページをご覧ください。

郷古 廉さんのヴァイオリンは、数年前に聴いて、そのスケールの大きさにすっかり魅せられ、いつか演奏をお願いしたいと思ってきました。一方で加藤洋之さんは10年ほども前からデュオや独奏で、このザ・フェニックスホールに大きな足跡を残して来られました。その二人がコンビを組み、バルトークのソナタとバッハの無伴奏を納めたCDが出た時、私はこの組み合わせに快哉を叫びました。郷古さんはしなやかで、加藤さんは構築的で、でも二人ともちょっと剣豪のような迫力があります。彼らの演奏は上俗性に根ざし、作品を、聴き手を挑発します。CDのシリーズは、バッハの6曲とバルトークの3曲が揃って一段落しましたが、彼らは次のシリーズも計画中のこと。今回のプログラムでは、これまでのレパートリーの中の選りすぐり(バルトークのソナタ第1番)と、そして新たに挑戦するブランクやヤナーチェクを組み合わせた、目の覚めるような演奏が聴けそうです。今もっともワクワクさせる二人の演奏をお楽しみください。

伊東信宏(大阪大学教授/あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)



郷古 廉(ごうこ・すなお/ヴァイオリン)

2013年ティボール・ヴァルガシオン国際ヴァイオリンコンクール優勝ならびに聴衆賞・現代曲賞を受賞。現在、国内外で最も注目されている若手ヴァイオリニストのひとり。1993年生まれ。宮城県多賀城市出身。2006年第11回ユーディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門第1位(史上最年少優勝)。2011年、2012年、2014年と《サイトウ・キネン・フェスティバル松本》でストラヴィinsky作曲「兵士の物語」に出演。《東京・春・音楽祭》、《ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン》にも招かれている。2014年デビューCDをリリース。これまでに勅使河原真実、ゲルハルト・ボッセ、辰巳明子、パヴェル・ヴェルニコフの各氏に師事。ジャン・ジャック・カントロフ、アナ・チュマチェンコの各氏のマスタークラスを受ける。使用楽器は1682年製アントニオ・ストラディヴァリ(Banat)。個人の所有者の厚意により貸与される。



加藤洋之(かとう・ひろし/ピアノ)

東京藝術大学器楽科を首席で卒業。在学中に安宅賞受賞。1990年ジュネーヴ国際音楽コンクール第3位入賞後ハンガリー国立リスト音楽院に留学し、イシュトヴァン・ラントシュに師事。1996年ドイツのケルンに移り、パヴェル・ギリロフに師事。ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーとはたびたび共演し、特に第1コンサートマスターのライナー・キュッヒルとは、デュオ・パートナーとして数多く演奏を重ねている。2010年、ウイーン・ムジークフェラインザールで楽友協会の主催によるベートーヴェンのピアノとヴァイオリンのためのソナタ全曲演奏会は、大成功を収めた。



**5月24日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約**

**5月27日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約**

**5月28日(火)
10:00
一般発売**

インターネット予約、ご来店による
お申込みは**5月29日(水)10:00**から!

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ90

主催 古瀬まきをリサイタル実行委員会

**2019年
11月13日(水)**

19:00開演 自由席
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥2,500
※友の会割引は無制限。
※学生券は大学生以下対象。

古瀬まきを ソプラノリサイタル ~La voix humaine~

出演 古瀬まきを(ソプラノ)、遠藤玲子(ピアノ)、藤野明子(字幕)

曲目 プーランク:偽りの婚約
團伊玖磨:ジャン・コクトーに依る八つの詩
プーランク:歌劇「人間の声」

電話、ポケベル、携帯電話、スマートフォン…人間が生み出した便利なコミュニケーションツールでありながら、いつのまにか私達を縛り付ける電話。その電話を題材にしたプーランク作曲、ジャン・コクトー原作のモノオペラ「人間の声」を中心とするリサイタルです。前半には、プーランクとコクトーに縁深いルイーズ・ドゥ・ヴィルモラン詩による歌曲集「偽りの婚約」、コクトーの詩(訳:堀口大學)に團伊玖磨が作曲した「ジャン・コクトーに依る八つの詩」を演奏。オペラ「人間の声」は1930年にコクトー作の戯曲として初演、1959年プーランクによってオペラ作品として発表された全一幕のオペラです。たった一人の歌い手により演じられるこの作品は、およそ45分間電話機での会話のみに終始し、人間の繋がりの危うさ、心のもうさを描いた名作です。演者の息づかいが、視覚的にも音響的にも手に取るように味わえるザ・フェニックスホールでの上演に、「歌う女優古瀬まきを」が挑みます!オペラの概念を覆す濃密な演劇的空间を、ぜひご体感ください!

古瀬まきを(ふるせ・まきを／ソプラノ)



相愛大学卒業、京都市立芸術大学大学院修了。平成25年度文化庁新進芸術家海外研修員として一年間ドレスデンで研修。第15回松方ホール音楽賞、第24回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、第22回ABC新人コンサート最優秀音楽賞ほか多数受賞。「フィガロの結婚」「ランメルモールのルチア」「ロメオとジュリエット」「ナクソス島のアリアドネ」など多くのオペラに主演するほか、宗教曲のソリストとしても多数出演。平成28年度尼崎市民芸術奨励賞。

遠藤玲子(えんどう・れいこ／ピアノ)



大阪芸術大学を学費全免生として卒業。高城昌二郎、鈴木良一、横田新子の各氏に師事。ソロ、室内楽の活動や、伴奏ピアニストとして国内外の演奏家と舞台を踏み、NHK-FM、CD録音に於ても共演する。日本、フランス、ドイツ各々の歌曲やオペラの分野の研鑽を重ね、畠中良輔、トム・ボレン、ダルトン・ボールドウインの各氏に師事。日本演奏連盟、日本ピアノ教育連盟、京都フランス歌曲協会各会員。大阪芸術大学、滋賀短期大学、各非常勤講師。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時に電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イーフェニックス)優先予約

- ・E-PHX(イーフェニックス)のご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

■一般発売

- ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

http://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約 (主催公演のみ)

- ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれなりますがお電話でお問合せください。
- ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもあります。どうぞ了承ください。
- ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法

下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。

- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

Pick Up ピックアップ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛
公演

アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)

主催 コジマ・コンサートマネジメント

2019年7月4日(木) 19:00開演 指定席

発売中

一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) ※友の会割引は前売のみ

出演 アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)

曲目 シューマン:蝶々 作品2

交響的練習曲 作品13(1852年版)

ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」

1974年 弱冠18歳でチャイコフスキーオンクール優勝。巨匠リヒテルの代役としてザルツブルク音楽祭に登場して大成功!輝かしい栄光の後に到来した悲劇的な苦悩を克服して完全復活!
実に18年ぶりの日本公演。



協賛
公演

猪居 謙&猪居亜美 CD発売記念ジョイントコンサート

主催 猪居ギター教室

2019年7月5日(金) 19:00開演 自由席

発売中

一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050)

学生前売¥3,000 学生当日¥3,500 小学生前売¥500 小学生当日¥1,000

出演 猪居 謙、猪居亜美(以上ギター)

曲目 ブローウェル:オリシャたちの儀式

M・タディッチ:ウォークダンス

西森久恭:イタリアの思い出に寄せる2つの小品

ウォルトン:5つのバガテルより ほか

第2作目となるアルバムを発表する兄・猪居 謙と、第3作目となるアルバムを発表する妹・猪居亜美の記念すべきアルバム発売記念コンサート!! デビューの地、ザ・フェニックスホールでのような進化を見せるのか、乞うご期待です!!



協賛
公演

濱田あや チェンバロ・リサイタル 花鳥風月～The Beauty of Nature～

主催 濱田あやコンサート事務局

2019年7月20日(土) 14:00開演 自由席

発売中

一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150) 一般当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 濱田あや(チェンバロ)

曲目 F・クープラン:恋の夜鳴きウグイス、森の精、波
ラモー:鳥のさえずり、西風とバラのための快活なエール、
つむじ風、めんどり

J-S・バッハ:トッカータ 二長調 BWV912

武満 徹:夢見る雨

ジャック・デュフリ:ロンド、ドゥ・プロムブル、
ボトゥアン、ドゥ・ヴォーカンソン
ベルナール・ド・ビュリ:西風の神、花の女神、シャコンヌ

鳥のさえずり、風が木の葉をゆらすざわめき、鶏の鳴き声を
チェンバロで表現するとどうなるでしょう? バロック時代、ロコ
コ趣味に溢れた18世紀。作曲家は、自然が奏でる音や憧れの
田園風景を、愛らしく、ときにはユーモラスに描写してしま
た。今回は現代曲も取り入れた「自然」へのオマージュ。自然
から生まれた音楽のイマジネーションを、チェンバロの詩的なタッチや色彩感、華麗なヴィルトゥ
オーソ的テクニックで繰り広げます。花と緑に彩られた宮廷庭園を訪れるように、優雅なプロムナー
ドを巡りましょう(解説トーク付き)。www.ayahamada.com



協賛
公演

小峰航一(ヴィオラ/京都市交響楽団首席奏者) “ヴィオラが演ずるロメオとジュリエット！”

主催 コジマ・コンサートマネジメント

2019年7月30日(火) 19:00開演 指定席

発売中

一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700) ※友の会割引は前売のみ

出演 小峰航一(ヴィオラ)、岸本雅美(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン(プリムローズ)編:
ノットウルノ(夜想曲) 作品42
ブラームス:ヴィオラソナタ 第2番 変ホ長調 作品120-2
ストラヴィンスキー:悲歌
プロコフィエフ(ボリソフスキイ)編:
「ロメオとジュリエット」より序曲、
“少女ジュリエット”、“騎士の踊り”、“マーキュシオ”、“
ローランス僧庵でのロメオとジュリエット”、“
ジュリエットの死”

京響首席ヴィオラ奏者でザ・フェニックスホールでもおな
じみの「関西弦楽四重奏団」のメンバーでもある小峰航
一がヴィオラ演奏の可能性を追究する。往年の名ヴィオリ
スト プリムローズの編曲やブラームスの傑作のみなら
ず、本来バレエのための管弦楽曲でプロコフィエフの「ロ
メオとジュリエット」の物語を“ヴィオラ”で演じる!



協賛
公演

Quartet Explloce(カルテット・エクスプローチェ) ~響炎する4本のチェロ~ Tour 2019

発売中 2019年8月9日(金) 19:00開演 指定席

一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700) 一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150) 学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

主催 フィリー企画

出演 辻本 玲、市 寛也、森山涼介、高木慶太(以上チェロ)
曲目 J·S·バッハ:無伴奏ヴァイオリンパルティータ
第2番 BWV1004より「シャコンヌ」
ムソルグスキー:展覧会の絵
ショパン:ポロネーズ 第3番 イ長調「軍隊」作品40-1
ピートルズ:イエスタディ
ピアソラ:アディオス・ノニーノ ほか

今年もカルテット・エクスプローチェがやって来ます!チェロ4本では大変めずらしいオーケストラの名曲、ムソルグスキーの「展覧会の絵」にチャレンジし、ピートルズの曲などバラエティに富んだプログラムになっています。チェロカルテットならではの重厚な音から繊細な音までチェロの持っている魅力を余すところなく楽しんでいただけると思っております。会場でお待ちしております。

協力
公演 サマーミュージックフェスティバル大阪2019

主催 大阪アーティスト協会

《ドンキホーテ讃》～網干毅先生を偲んで「夏祭なにわなくとも室内楽」第1夜・第2夜

発売中 2019年7月13日(土)、14日(日) 17:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 2夜セット券¥7,000 学生(24歳以下)¥2,000

出演 岩谷祐之、ギオルギ・バブアゼ、木村直子、日比浩一、金閨 環(以上ヴァイオリン)
木村政雄、大町剛、近藤浩志、日野俊介(以上チェロ)
椋木裕子、柴田牧、星裕子、平野智美、高橋小牧、湊谷亜由美、小林かづみ(以上ピアノ)
石井理子(ハープ)、武村美穂子(フルート)、小林千晃、大島弥州夫(以上オーボエ)
新暁子、篠原猛浩(以上クラリネット)、東口泰之(ファゴット)
スーパーリコーダーカルテット/北山 隆、松浦孝成、村田佳生、渡辺清美(以上リコーダー)

曲目 シューマン:ヴァイオリンソナタ 第1番 イ短調 作品105
イベール:ヴァイオリン、チェロ、ハープのための三重奏曲
ピアソラ:ル・グラントンゴ、ブルノスアイレスの夏
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 作品100
メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 ニ短調 作品49
ショパン:チェロとピアノのためのソナタ ト短調 作品65 ほか

協力
公演 サマーミュージックフェスティバル大阪2019

主催 大阪アーティスト協会

《ドンキホーテ讃》～網干毅先生を偲んで

第3夜「夏の夜の夢は夢く」・第4夜「見ると聴くのは大違い」

発売中 2019年8月3日(土)、4日(日) 17:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 2夜セット券¥7,000 学生(24歳以下)¥2,000

出演 佐野智子、日比浩一、木田雅子、ギオルギ・バブアゼ、八幡順(以上ヴァイオリン)
日野俊介、大町剛(以上チェロ)、松村敬子、道場雅、富岡順子、木下たまみ、
平木雅美、碇山典子、雑古亜由美、大塚紀子、加藤英雄、丸山耕路(以上ピアノ)
中島悦子、三木香奈(以上ヴィオラ)、畠儀文(テノール、ピアノ)
増井一友(ギター)、坂口さやか(ソプラノ)、エンキ(中国琵琶)

曲目 モーツアルト:ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 K478
ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第5番 ニ長調「幽霊」作品70-1
ブラームス:弦楽六重奏曲 第1番 変口長調 作品18 より 第2楽章
ドビュッシー:小組曲、喜びの島、金色の魚
ケクラン:陸景と海景 作品63 より
ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」ほか

※曲目の詳細は同封のチラシをご覧ください。

ザ・フェニックスホール友の会会員様限定 ～2019年度ティータイムコンサート通し券特典 当選者発表！～

2019年2月28日までに、2019年度ティータイムコンサートの通し券をお求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、

本年度主催公演(ホール指定)のご招待状をプレゼントする限定特典の当選者は以下の方々です。

6月14日にはティータイムコンサートシリーズ第1公演、「ソフィー・デルヴォー ファゴットリサイタル」を開催いたします。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■プレゼント当選者■

大阪市／青山様

姫路市／碧山様

豊中市／河村様

生駒市／西川様

伊丹市／広兼様

Essay de say エッセイでつせ

2019年度「エッセイでつせ」(全6回)は、「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」に過去出演された方々にご登場いただきます。現在の活動の様子をご紹介いただくとともに、音楽に対する想いをテーマにご執筆いただく予定です。

「イマジナリー・シアター」から「花鳥風月」へ 濱田あや



Keizo Matsui

チェンバリストという職業柄、旅をする機会が多い。世界のいろいろな場所を訪れ演奏することは楽しいし、その国の言葉を話す機会は嬉しいものだ。しかし時として旅先では楽器の確保が大変。自分のチェンバロの置いてあるニューヨークに戻ってくると、ホッと一息つく思いがする。

コンサートやリハーサル以外の大半の時間は練習に費やすが、その合間に訪れるお気に入りの場所が2つある。アッパー・イースト・サイドにある美術館「フリック・コレクション」と、リンカーン・センターにある「メトロポリタン歌劇場」だ。どちらも私のアパートから徒歩圏内にあるので、気分転換に出かけるのに打って付けだ。

「フリック・コレクション」は5番街に位置し、実業家ヘンリー・フリック氏の個人邸宅(築:1914年)を改装した、隠れ家的な美術館。フェルメールやドガ、フラゴナルの絵画や豪奢な室内調度品といった彼の個人収集品が展示してある。美しい庭に囲まれた豪邸に足を踏み入れると、タイムトンネルを抜けて大富豪の邸宅に招かれたかのよう。それでいて手の届くところに芸術作品が展示されており、居間で寛ぐかのような感覚で鑑賞できる。

「メトロポリタン歌劇場」へは、当日券を買ってふらりと観に行くことが出来るのでとても恵まれた環境だ。車のクラクションが鳴り響く街の喧騒の中を、アップストアや母校のジュリアード音楽院を足早に通り過ぎて行くと、シャガールの大壁画とシャンデリアに迎えられる。どんなオペラの演目を觀ても、舞台は豪華絢爛。日常を忘れて異次元を旅しているような気分になる。4000人近く収容する大きなオペラ劇場だが、舞台を包み込むように客席が配置されているので、ステージがとても近く感じられる。

どちらの場所にも共通しているのは、都会の真ん中にあるながら、優雅な気分で別世界に誘われるスペースであること。そして芸術を身近に感じ一体感を味わえるということだ。

梅田地下街の人混みを抜けて、ザ・フェニックスホール

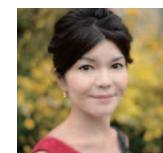
にはじめて訪れたときにも、ビル群の中のエレガントな佇まいに、同じような雰囲気を感じ心が躍った。そして2017年に「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」でリサイタルを開催する機会を賜り、すぐさまザ・フェニックスホールとオペラハウスをシンクロナイズする企画を考案した。「イマジナリー・シアター～チェンバロ劇場～」という、オペラの楽曲のチェンバロ編曲版を集めたプログラムで、思いの詰まった大切なコレクションだ。

コンサート当日、演奏していると、想像した以上に舞台と観客との密着感を強く感じた。入退場の時など思わず握手をしそうになったほどだ。「奏者の息遣いが感じられる」という文句は聞くが、私にとっては「聴衆の熱気や温かさがひしひしと伝わってくる」ホールであった。客席の反応を全身で感じると、演奏も波に乗ってくる。夜のイタリア、野外円形劇場にいるかのように、チェンバロの響きや拍手が空から降り注ぐ、幻想的なひとときを持てたことに感謝の念が尽きない。その後も、カナダ・ケベック州政府主催のリサイタルなど大きなステージに何度も恵まれたが、客席との連帯感をひとしお意識して臨むようになり、「イマジナリー・シアター」の一日が今でも大きな宝となっている。

今夏、2年ぶりのザ・フェニックスホール公演。木蓮が満開のフリック・コレクションの庭を眺めながら、「密な空間で味わうチェンバロ」を念頭にアイデアを描き始めた。そして、今回の舞台は「宮殿の庭園や森」へとイメージが広がった。麗しい花園や木立の中に開けた空間へと誘うべく、「自然」をテーマにした「爽やかで甘い香りがする」プログラムをと思いを巡らせるとき、次から次へとチェンバロ曲が思い浮かんでくる。愛らしい曲から華やかに響き渡る曲まで「自然」と繋がっていた。

やはり地元でのリサイタルへの思いは格別。今回はステージから、どんな景色を見ることが出来るだろう? あと驚くアンコール曲も計画中だ。

濱田あや(はまだ・あや)/チェンバロ奏者 兵庫県芦屋市生まれ。神戸女学院中高部を経て、同大学音楽学部首席卒業。ジュリアード音楽院古楽演奏科を第一期生及び特待生として最優秀の成績で修了。「世界の9人のチェンバリスト」の1人に選ばれ、日本人としては初めて、アンティーク・チェンバロの祭典「ハープシコード・ヘヴン」でリサイタルを行ったほか、日本、米国、カナダ、中南米、欧州各地でリサイタルを開催。デビューCD「デュフレ:クラヴサン曲集」は「レコード芸術」誌《特選盤》、英国「Music Web International」《月間ベストCD》等に選出された。7月20日(土)ザ・フェニックスホールで「花鳥風月～The Beauty of Nature～」が開かれる。ニューヨーク在住。オフィシャルウェブサイト・ブログ <https://www.ayahamada.com/>



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損害保険ザ・フェニックスホールをフェニックススター内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損害フェニックススター8F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2019年5月
発 行 あいおいニッセイ同和損害
ザ・フェニックスホール
編 集 諸藤 修一
デザイン 松井桂三有限会社

